

ウェブコンテンツ「事故事例検索」  
(農作業事故事例検索システム)  
利用マニュアル

2025年10月版

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構  
農業機械研究部門  
システム安全工学研究領域 予防安全システムグループ

農作業事故については、死亡災害の就業人口あたり発生件数が他産業に比べて突出しており、大きな問題となっています。重大事故は様々な要因が重なって発生するため、実効的な対策には、これらを詳細に調査・分析した事故事例の活用が不可欠ですが、農作業事故では他産業に比べて公開されている報告が少なく、内容も全ての事故要因は記載されていない等、多面的な対策の検討には不十分であることが多いため、従前の農作業現場での安全対策は、人的要因（不注意や誤操作への注意喚起等）に対する啓発に偏りがちです。このような状況に対して、現場での農作業安全推進の担当経験を有する普及指導員や営農指導員からは、具体的な事故事例と、その原因を踏まえた対策事例への要望が挙げられていました。

ウェブコンテンツ「事故事例検索」（農作業事故事例検索システム）は、このような現場ニーズに対応すべく、現地関係機関と連携し、機械等の起因物や事故現場の確認、被災者からの聞き取り等による詳細な事故調査を行い、事故要因や対策方法等を多面的に分析した個別報告を、ウェブ上で作目・事故形態・機械用具名称から検索できるように開発されたものです。

お問い合わせ先は以下のとおりです。

（国研）農研機構 農業機械研究部門

システム安全工学研究領域 予防安全システムグループ

TEL：048-654-7053 FAX：048-654-7131

Email：[anzen-info@ml.affrc.go.jp](mailto:anzen-info@ml.affrc.go.jp)

## 目 次

1. システムの概要と使用方法	3
1) システムの概要	3
2) 使用方法	4
(1) 公開ページへの入り方と利用規約	4
(2) 作目ごとの事故事例をみる	5
(3) 事故形態ごとの事故事例をみる	5
(4) 機械用具名称ごとの事故事例をみる	5
(5) 個別報告の読み方	6
2. それぞれの立場からの活用	8
3. 今後の予定と対応	8

# 1. システムの概要と使用方法

## 1) システムの概要

農作業事故防止に向けた現場レベルでの具体的な改善のための情報発信手段であり、インターネットに接続された端末からウェブブラウザでアクセスし、作目別の事故事例一覧から、事故形態や機械用具名称で対象を絞り込み、該当する個別報告をPDFファイルで閲覧できるシステムです（図1）。

各個別報告は、北海道農作業安全運動推進本部と連携し、農協等現地機関の協力により2011年度から詳細調査を行った事故事例についてまとめたものです。分析は農作業安全の知見を有する研究者複数名が関連資料を踏まえて行い、現地関係機関が事前に確認を行うことで、内容の適切性の確保につなげています。個人情報を含みません。

※インターネットでの公開により、常に最新の事故情報の追加・提供を広く行うことが可能となっています。  
検索機能はHTMLベースで構成されており、主要なウェブブラウザでの動作を確認しています。

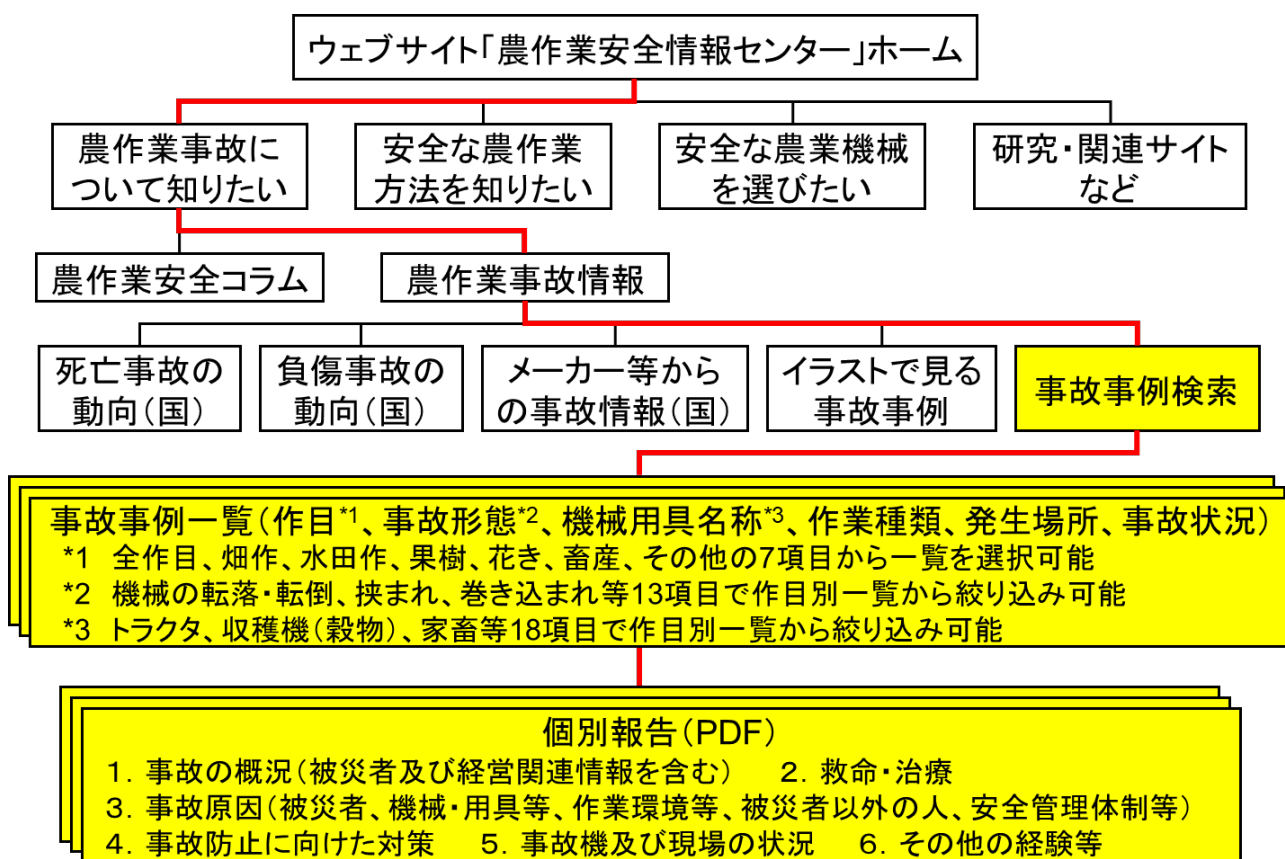


図1 農作業事故事例検索システムの概要

## 2) 使用方法

### (1) 公開ページへの入り方と利用規約

ウェブサイト「農作業安全情報センター」(https://www.naro.go.jp/org/iam/anzenweb/) ホームから、「農作業事故について知りたい」→「事故事例検索」と選択すると(図1)、本システムのメインページ(図2)が表示されます。

利用にあたっては、メインページ右下の「使い方」から「事故事例検索コンテンツご利用規約」を確認し、承諾することが必要となります。(コンテンツの利用により、本利用機規約の全ての条項を遵守することに同意したものとみなされます)

ホーム 機械別 作業別 作物別

Data 事故事例検索

POINT 農作業事故の事例と原因を知り、具体的な対策につなげましょう

(注意) 本コンテンツのご利用にあたっては、下の【使い方】に示したご利用規約をご確認の上、全ての条項に同意していただく必要があります。

農作業事故の多くは、いくつかの原因が重なって起きています。ここでは、実際の事故事例について、詳細調査を行い、事故の原因を、(1)被災者、(2)機械・用具等、(3)作業環境等、(4)被災者以外の人(または牛等)、(5)安全管理体制等に分類した結果を紹介します。

他産業では、毎日、朝礼を行い、全員で作業の段取りの確認、各作業に潜む危険の洗い出しを行う等、安全のための取り組みが徹底されています。単なる注意喚起に留まらず、危険源を把握し、改善することで事故を減らすことができます。

本事故事例検索が、少しでも皆様の安全作業につながれば幸いです。

※本コンテンツの背景および詳細についてはこちら(PDF)をご覧ください。

※各事故事例の内容について、さらなるご意見やアイデア等がありましたら、こちらに記載のメールアドレスまでご意見ください。

【2019年5月】 試用版を公開しました(試用版は内容や構成等が予告なく変わる可能性があります)。

【2020年5月】 一部改良と事例追加を行い、本公開を開始しました。

No	作目	【使い方】
1	全作目	<p>ご利用前に必ず<b>ご利用規約</b>(クリックまたはタップでPDFを表示)をご確認ください。本コンテンツのご利用により、本利用規約の全ての条項を遵守することに同意したものとみなします。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>表から各作目をクリックまたはタップすると、それぞれの作目に関連する事故事例の個別調査報告が一覧で表示されます。</li><li>一覧の上にあるプルダウンメニューから、さらに「事故形態」「機械用具名称」で事故事例の個別調査報告の絞り込みができます。</li><li>「機械用具名称」では大まかな分類が表示されます。各表示に含まれる機械の詳細はこちら(PDF)で確認できます。</li><li>事故原因等の詳細な調査・分析結果については、それぞれの「個別報告No.」をクリックまたはタップするとPDFで確認できます。</li><li>より詳細な使い方については、こちら(PDF)のマニュアルをご覧ください。</li></ul> <p>※作目のうち「その他」は現在のところ該当データはありません。</p>
2	畑作	
3	水田作	
4	果樹	
5	花き	
6	畜産	
7	その他	

いずれかをクリックすると個別報告の概要一覧が表示

ライブラリー

- 農機安全eラーニング
- 農作業安全コラム
- 農作業事故について知りたい
- 安全な農作業方法を知りたい
- 安全な農業機械を選びたい
- 研究・文献・関連サイトなど

このサイトについて

- 農作業安全情報センターとは
- プライバシーポリシー
- 著作権・免責事項など
- サイトマップ

図2 農作業事故事例検索システムのメインページ(2021年4月時点)

## (2) 作目ごとの事故事例をみる

メインページ左下の作目一覧から、確認したい作目を選択すると、それぞれの作目に関連する事故事例の個別報告の概要が一覧表示されます（図3）。

一覧の項目として、「個別報告No.」「作目」「事故形態」「機械用具名称」「機械用具詳細」「作業種類」「発生場所」「事故状況」を示しています。このうち「事故形態」「機械用具名称」は、(3)及び(4)で示すように、絞り込み表示も可能です。

一列目の「個別報告No.」を選択すると、個別報告のPDFファイルが表示されます。

プルダウンメニューで絞り込み可

個別報告No	作目	事故形態	機械用具名称	機械用具詳細	作業種類	発生場所	事故状況
1	畜産	人の転落・転倒	用具（高所作業）	ハシゴ	移動	繋ぎ飼い牛舎	搾乳作業中、ミルカの修理のため牛舎2階に部品を取りに行き、降りる際にハシゴに足をかけたところ、ハシゴの接地部分が滑って落下し、1階床に後頭部と全身を打ちつけた。
2	畜産	人の転落・転倒	トラクタ	トラクタ	収穫	牧草地	牧草刈取中、直進作業のためにほ場反対側の木に付けた目印を確認するため、トラクタ運転席からボンネットに乗り移ろうとしたところ、バランスを崩して落下した。
3	畜産	身体への衝突	荷役・運搬・土工機械	スキッドステアローダ	運搬	自宅敷地	スキッドステアローダで、ロールバールを1.5mの高さに持ち上げ、一旦降車して内部の品質を確認した後、急いで乗り込もうとした際、アタッチメント基部に頭部を強打した。
4	畜産	挟まれ	家畜	牛	牛の移動	パドック	パドックの中に入って、出産間際の乳牛を独房舎に入れようとしていたところ、別の牛が走ってきたので、逃げようとしたが間に合わず、柵と牛の間に挟まれた。
5	畜産	家畜との接触	家畜	牛	搾乳	繋ぎ飼い牛舎	牛がパイプラインミルカのエアホースを抜いたので、その牛を大声で叱ったところ、牛が尻を振って被災者の足を踏んだ。こずるように踏まれ、負傷度合がひどくなった。
6	畜産	突き刺し	用具（その他）	サイレージフォーク	牛床清掃	繋ぎ飼い牛舎	牛床の敷料をサイレージフォークでならしていたら、突然、背後の牛が右肘にぶつかり、その拍子に、持っていたサイレージフォークの先端が被災者の左足親指に突き刺さった。
7	畜産	衝突	家畜	牛	移動	自宅敷地	分娩を終えた初産牛にモクシを付けて搾乳牛舎に連れていく途中、暴れて走って逃げた。引き縄を持ったままだったので、引っ張られて転び、牛の後脚に顔面をぶつけた。

いずれかをクリックすると個別報告へ

図3 個別報告の概要の一覧表示画面（2021年4月時点）

## (3) 事故形態ごとの事故事例をみる

メインページでそれぞれの作目を選んで事故事例の個別報告の概要一覧（図3）を表示し、一覧の上にある左側プルダウンメニューから、機械の転落・転倒や巻き込まれなどの「事故形態」を選択すると、その作目において該当する事故事例のみが一覧表示されます。一覧上の各事例の「個別報告No.」を選択すると、個別報告のPDFファイルが表示されます。

※作目に関係なく、全ての事故事例から絞り込みたい場合は、メインページ左下の作目一覧で、「全作目」を選択してから、プルダウンメニューで目的の事故形態を選択します。

※(4)に示す右側プルダウンメニュー「機械用具名称」による絞り込みと組み合わせることも可能です。

## (4) 機械用具名称ごとの事故事例をみる

メインページでそれぞれの作目を選んで事故事例の個別報告の概要一覧（図3）を表示し、一

覧の上にある右側プルダウンメニューから、トラクタや収穫機（穀類）などの「機械用具名称」を選択すると、その作目において該当する事故事例のみが一覧表示されます。一覧上の各事例の「個別報告 No.」を選択すると、個別報告の PDF ファイルが表示されます。

※プルダウンメニューでは、機械・用具等を大まかに分類したものが示されます。具体的な機械がどの分類に含まれているかについては、メインページ右下の「使い方」からリンク先の PDF ファイルで確認できます。

※作目に関係なく、全ての事故事例から絞り込みたい場合は、メインページ左下の作目一覧で、「全作目」を選択してから、プルダウンメニューで目的の事故形態を選択します。

※（3）に示す左側プルダウンメニュー「事故形態」による絞り込みと組み合わせることも可能です。





## （5）個別報告の読み方

個別報告は、事故の概況、救命・治療の経緯、事故原因、事故防止対策、事故機や現場の状況説明図で構成されています（図4）。1行目には、（2）～（4）の各項目のどれに該当する報告であるかが記載されています。

事故原因については、人、機械・用具等、作業環境等、安全管理（作業方法等）の各要因に該当するものを分析、記載しており、それぞれの観点から、農作業現場に潜在する問題点を把握することができます。

事故防止対策については、当事者による実際の事故後の対策を改善事例として紹介するとともに、各要因において他に推奨する対策も併記しています。また、今後の機械開発・改良における安全上の要点など、製造者の参考になる情報も示してあります。

これらを参考にすることで、個々の農作業現場における類似事故の防止に向けた、従来の人への対策（注意喚起等）のみに依存せず、実効的かつ多面的な対策の検討ができます。

※原因と対策がどの観点によるものかをわかりやすくするため、人に関するものには 、機械・用具等に関するものには 、作業環境等に関するものには 、安全管理（作業方法等）に関するものには  のラベルをつけています。

小麦乾燥施設のバケットエレベータを清掃すべく、別の作業者に止めるよう伝え、止まったと思って清掃口に入れたところ、まだ動いていた中のバケットに当たって跳ね上げられ、清掃口上側に手首がぶつかり骨折した。

1. 事故の概況

・諸条件及び背景

当該小麦共同乾燥施設では、単独作業とならないように、常に二人一組での乾燥作業を行っている。当日も、被災者と共同作業者の2名で乾燥作業を行っていた。

・事故の発生とその経緯

午後2時ごろ、荷受けする小麦の品種が変わるため、穀物乾燥機(56石)のバケットエレベータ内部の清掃に取り掛かろうとした。地下ビット(幅2.75m×奥行2.80m×高さ2.4m)に降りて、地上階の操作盤前にいた共同作業者に停止の指示を出した(図1~2)。指示が伝わったことを明確に確認することはできなかったが、共同作業者に伝わっていると思ひこみ、清掃作業を開始した。屈みこんで清掃口を覗いたが、地下ビット内は暗く、またバケットの動きは高速であるため目視で確認することはできなかった。清掃口に手を入れて内部(図3)の清掃をはじめたところ、実際にはバケットエレベータは稼働したままであったため、清掃口から見て手前上側に移動してきたバケットに左手指が当たって跳ね上げられ、その勢いで清掃口上側の鋼板に左手首がぶつかって、骨折した。

年齢・性別：70代前半(事故当時)  
 経営内容等：男性畑作・専業、家族経営  
 発生日時：8月上旬 午後2時頃  
 発生日時：8月上旬 午後2時頃  
 発生場所：施設内  
 傷病名：左手首骨折

2. 救命・治療

一緒に地下ビット内で作業をする予定だった共同作業者が、被災者の声に気づき、地下ビット内に急いで降りた。被災者は共同作業者に押し上げてもらい、地下ビットから施設地上階に上がり、しばらく様子を見た後、家族に電話連絡をし、迎えに来てもらい、施設から事前に電話連絡をした病院で受診。左手首骨折と診断され、ギプスで1ヶ月程度固定し、その後リハビリを行った。現在は生活、農作業とも支障はない。

3. 事故原因

1) 被災者に関連する要因 人

- 異なる品種の小麦の荷受け前に、バケットエレベータ内の清掃を終えなければなかった。
- 清掃のための用具もあったが、手でかき出そうとしてしまった。

2) 機械・用具等に関連する要因 機

- バケットエレベータ作動中も、清掃口を開けることができちゃう構造であった。

事故の概況

救命・治療

事故原因  
 (被災者、機械・用具等、作業環境等、被災者以外の人、管理体制)

- 組作業制をとっていたため、すぐに共同作業者が地下ビット内に降りてきて、迅速な対応が図られた。
- 5) 安全管理体制等に関連する要因 法
- 停止の指示・確認を地上階で行い、その後地下ビットへ移動するといった手順を踏むべきであった。
  - 停止指示後、相手に指示が伝わったかどうかの確認を取るまでのルーティンがなかった。
  - バケットエレベータが停止した。
  - 指定の清掃用具で清掃するべきであった。
  - 指定の清掃用具が使いやすい場所に設置するべきであった。

事故防止に向けた対策

4. 事故防止に向けた対策

1) 事故後にとられた対策

- 地下ビット内に照明を追加した(図4)。**機 環**
- 2) その他推奨する対策
- ヘッドライトや懐中電灯を利用して、装置内部の様子を確実に確認できるようにする。**法**
  - 停止指示・確認は地下ビットへ移動する前に完了する。**法**
  - 手や腕を入れることなく、清掃用具などのみを入れて清掃するようにする。**法**
  - 清掃用具は、使いやすい場所に設置する。**環 法**
  - 組作業は迅速な対応につながるため、安全確保のためのルール化を徹底し、遵守することが望ましい。**法**

3) より安全な機械開発や機械利用に向けた課題

- バケットエレベータ作動中は、清掃口を開けられない構造とする。**機**
- 照明も含め、バケットエレベータの稼働状況を容易に確認できるようにする。**機**

現場の状況説明図

5. 事故機および現場の状況

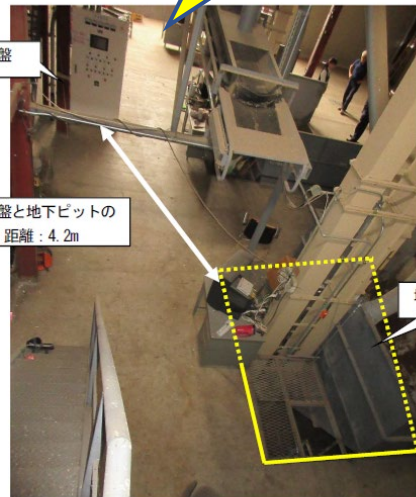


図1 操作盤と地下ビットの位置関係

図4 個別報告の例(2021年4月時点)

## 2. それぞれの立場からの活用

生産者においては、自らの作目や使用機械に該当する事故事例の個別報告を参考にすることで、自らの生産現場に潜在する類似の要因に気づき、事例も参照しながら事故防止対策につなげることができます。

普及指導機関、農協、自治体、労働安全関係者においては、地域での主要作目や使用機械をもとに個別報告を参照し、得られた情報をもとに、生産者に対して、安全で継続的な農業経営の実践につながる具体的な改善指導（GAP 認証に向けた指導を含む）を行うことができます。すでに2019年度より試行版の運用を行っており、北海道では安全啓発パンフレット（生産者全戸配布）で周知されているほか、全国各地の農作業安全研修会等でも個別報告の活用実績があり、地域に即した具体的な事例に基づく啓発情報は、指導側、生産者側の双方から好評を得ています。また、同じくウェブサイト「農作業安全情報センター」で公開している「対話型農作業安全研修ツール」を用いた研修においても、研修対象者のヒヤリハット体験や地域での事故実態に対応した事故事例の紹介等に活用できます。

機械用具製造販売業者においては、特に事故要因のうち機械に関する項目を確認することで、より安全な農業機械・用具の設計、供給、アフターサービスにつなげることができます。

## 3. 今後の予定と対応

本公開開始以降も、引き続き北海道農作業安全運動推進本部をはじめとした現地機関と連携して農作業事故の現地調査を行い、事故事例の追加を行うこととしています。

また、これらの事故事例を活用した農作業安全活動についての各種ご相談にも随時対応します。1 ページ目に記載したお問い合わせ先までご連絡ください。